



DMO 福津のコンセプト ～おいしい福津～

福津市は「光の道」をはじめ「かがみの海」などSNS映えするスポットが多くあり、さらに津屋崎漁港や福間漁港で水揚げされる新鮮な魚介類や温暖な気候を生かして生産される農産物など、おいしい食の魅力も溢れています。

DMO福津では、そんな福津市の魅力をさらに強化するため「おいしい福津」をコンセプトとしていて、訪れる人も住んでいる人も、福津市の自然、景観、食に触れ、癒しの時間と空間を過ごせる観光地を目指しています。

各エリアの課題

数多くの観光資源を有する福津市ですが、課題もあります。宿泊施設が少なく、観光客1人当たりの滞在時間が短いというのが市の全体的な課題です。



宮地嶽神社

福津市最大の観光スポットだが、参拝客を市内の各スポットへ周遊させ本市の観光客として取り組む必要がある。



津屋崎海岸

海水浴場利用者が減少し、施設の老朽化も進んでいるので、担い手を創出し、地域を活性化させる必要がある。



津屋崎千軒

観光で立ち寄る店舗などが少なく、駐車場が不足しているため、にぎわいを創出し、観光客の受け入れ態勢を強化する必要がある。



新原・奴山古墳群

付近に店舗が少ないため、周遊が難しい。公共交通による利便性に乏しいため、2次交通の充実化を図る必要がある。

ひかりのみちDMO福津が「目指すもの」と「そのミッション」

課題解決のためにDMOが果たす役割

プロジェクトマネジメント

- 地域コーディネート
魅力あるコンテンツの造成、合意形成やセミナーなどの開催
- ランドオペレーション
情報の受発信や受け入れ体制の仕組みづくり
- マーケティング
観光動向の分析・リサーチや効果的なプロモーション など

DMOによる施策と狙う効果《ビジョン》

- 周遊者数の増加
- 広告宣伝の強化
- 外国人観光客・若年層の増加
- 新たな「食×体験」メニューの創設
- 宿泊施設の再生・誘致
- 観光消費額増につながる「稼ぐ力」の強化

DMOが目指すもの

福津の魅力を生かした持続可能な観光まちづくり
農水産業をはじめとした地域産業の活性化、商店の継続や公共交通の維持、地域雇用＝観光地域づくり
住み続けたい街になる！シビックプライドの造成

interview

現在の観光のトレンドや福津の観光が向かうべき方向

福津市における観光産業はまだ発展途上にあると思います。DMO福津が掲げるコンセプト「おいしい福津」には、福津市の魅力ある食はもちろん、福津市で過ごす癒しの時間と空間の意味も込められています。

福津市は魅力的な農水産物が豊富です。今後も引き続き食のコンテンツの造成に積極的に取り組むことで、福津に行けば1年中おいしく、楽しい食があるイメージづくりを図っていきます。さらにこれらに取り組むことで、第一次産業をはじめとしたさまざまな産業とリンクさせて、多くの人に関わることができるように努めていきます。また、SNSをはじめとしたデジタル分野での取り組みも欠かせないと考えています。SNSで得た情報をもとに色々な場所に行ってみたり、SNSで発信するためにさまざまな体験を試してみたりと、観光の楽しみ方も若い世代を中心に大きく変わってきていると思います。

観光産業は常に変化し続けるものです。今後は、若い人や新しい力を取り入れながら、福津ファンを増やし、シビックプライド（郷土愛）を醸成するような新しい計画を出していこうと考えています。

◀花田伸二専務理事

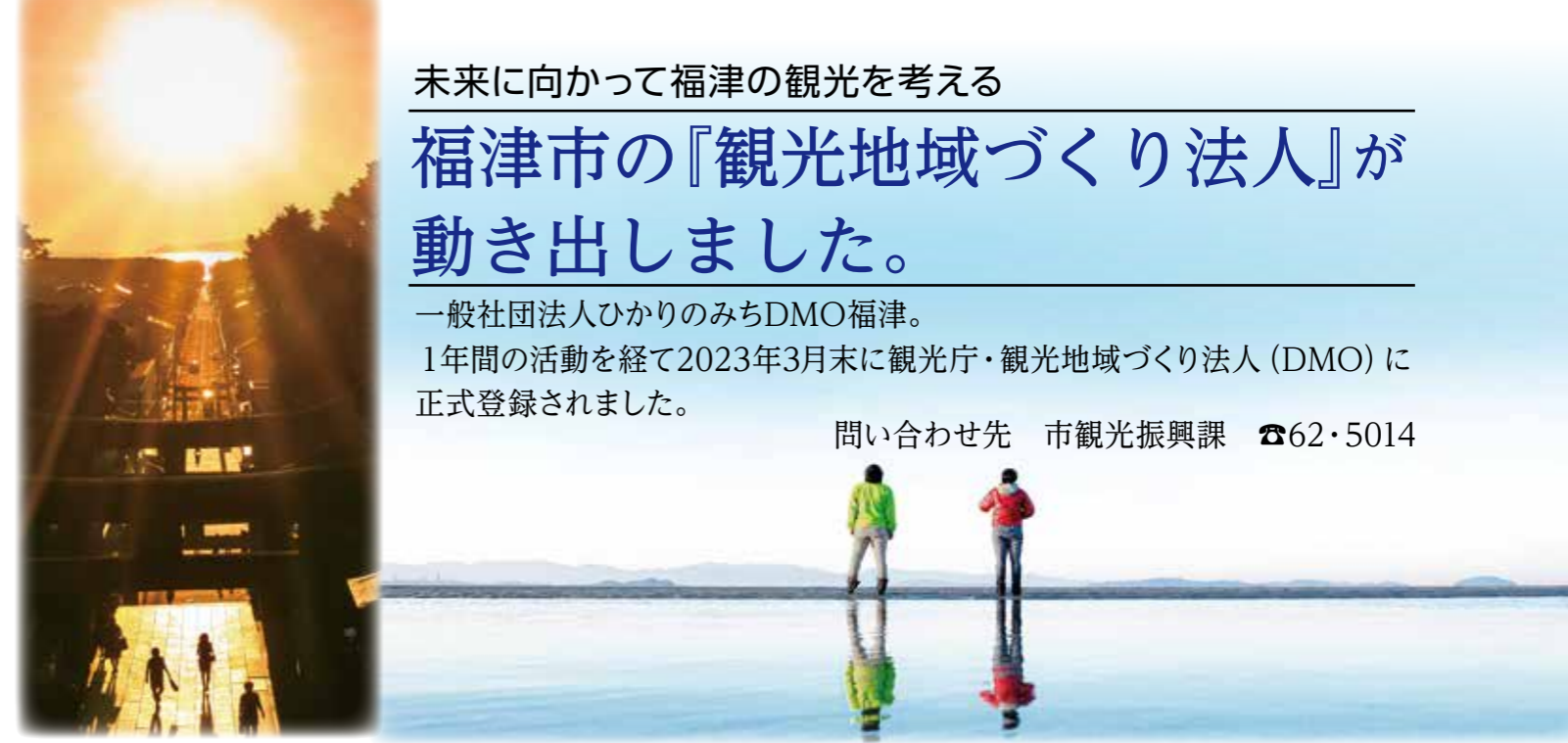
未来に向かって福津の観光を考える

福津市の『観光地域づくり法人』が動き出しました。

一般社団法人ひかりのみちDMO福津。

1年間の活動を経て2023年3月末に観光庁・観光地域づくり法人(DMO)に正式登録されました。

問い合わせ先 市観光振興課 ☎62・5014



DMO組織って何？

観光地域づくり法人(以下、DMO)は、正式名を「Destination Management (Marketing) Organization」といいます。地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに、地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりのかじ取り役を担っています。また、多様な関係者と共働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくり実現のための戦略を策定し、着実に実施するための調整機能を備えた組織です。

DMO発足に向けた取り組み

市では、2018年の福津市第2次観光基本計画策定に当たり、観光が地域総体産業となることを目指すために、DMOの

interview

DMOと連携したまちづくりを目指す

福津市には白砂青松の美しい浜辺があり、そこを訪れる観光客も増えています。海岸周辺には、オシャレなカフェやマリンスポーツが楽しめる施設が並ぶ一方で、歴史ある神社や街並みなど昔からある人々の暮らしや生業を感じられる場所がいくつもあり「新しさ」と「伝統」が共存していることが福津の魅力だと思います。

市としては、福津の魅力を国内外に向けて発信することや、福津ならではの癒しの時間と体験の開発、農水産業を含む多様な事業者や市民を巻き込み関係人口を増やすことなどを、DMO福津に期待しています。

今後は市は、DMO福津との連携を強化し、観光振興を通じて、地域の活性化と魅力あふれるまちづくりをすすめていきたいと考えています。



▶原崎市長





津屋崎千軒なごみの新たな取り組み

令和4年4月から、一般社団法人ひかりのみちDMO福津が指定管理者となった「津屋崎千軒なごみ」。津屋崎エリアの観光交流拠点となるべく、試行錯誤しながらイベントや各種事業に取り組んでいます。その取り組みの一部を紹介します。



なごみホームページ



なごみInstagram

観光案内所機能の充実化

津屋崎千軒を訪れた観光客への案内所として観光マップ類を充実させ、フリーWi-Fiも完備しています。スタッフが来館者にお薦めルートやカフェ、レストランの案内などを積極的に行うことで、津屋崎千軒を訪れた観光客にとっての玄関口としての役割を果たしています。

令和5年4月にはJNTO（日本政府観光局）認定の外国人案内所として認定されました。英語、中国語での案内が可能なスタッフを配置し、多言語マップも設置しています。また、今年の夏頃には、レンタサイクル事業を開始する予定です。

「おみやげショップ」と「なごみカフェ」

津屋崎千軒なごみは地元特産品や菓子、グッズなどを取りそろえたショップとしても利用できます。また、観光客や市民がくつろげる場所として、なごみカフェをオープンしました。地元のコヒーショップであるWithcoffeeの「フックアップブレンド」のほか、竜王戦勝負めしに

DMO福津の日頃の取り組み紹介

以下のような業務を行いながら、データ分析やマーケティングを通じて、福津の観光に必要な戦略を立てています。

食フェア



福津にいつ来てもおいしいものがあり、楽しいことができるように「ふくつの鯛茶づけフェア」「光の道開運スイーツフェア」などの食フェアを開催しています。各フェアでは約20店の事業者が参加しています。フェアで開発されたメニューが定番メニューとなり、年間を通じて提供されたり、年々磨き上げられたメニューが開発されたり、ふるさと納税でお取り寄せできたり、DMO福津のコンセプトである「おいしい福津」の根幹となる事業となっています。こうした食フェアを通じて、福津市への誘客促進、第1次産業（農水産業）の活性化を目指しています。

竜王戦勝負めし



令和4年11月に開催された第35期竜王戦福津対局で話題になった「勝負めし」のメニューを作成したことで、常にグルメもスイーツもおいしいものがある福津市をPRすることができました。

インバウンド事業



新型コロナウイルス感染症の水際対策の大幅緩和で、インバウンド（海外から訪れる外国人観光客）が回復傾向にあります。そこで、PR会へ参加したり、デジタル配信により、海外へ福津市の情報を発信したりしているほか、外国人向けのモニターツアーを実施しています。

PR活動・情報発信・マーケティング



DMO福津のウェブサイトおよびSNSを整備して、福津市の観光情報を集約し、福津市の観光スポットの情報や新しい店舗の情報などを積極的に発信しています。また、閲覧傾向など利用状況データを分析し、観光客を持続的に呼び込むためのデジタルマーケティングにも取り組んでいます。さらに、テレビやラジオ、新聞、雑誌、ウェブ媒体などの取材対応はもちろん、各メディアへプレスリリースを定期的に配信しています。



体験メニュー造成

福津市の素晴らしい自然とともにある新鮮な海産物や農産物を生かした体験メニューの造成や、福津市で特別な日常を楽しめる「福津暮らしの旅」などを実施することで、来訪者の滞在時間を伸ばし、市内消費額を拡大させていく取り組みを行っています。



DMOホームページ



福津光景 Instagram



DMO Instagram

interview

観光がつなぐ人と地域

DMO福津の使命は観光という手法を用いた地域づくりです。観光は、それ自体では地域に何も生み出しません。観光をその地域のさまざまなものに結びつけることによって、素晴らしい魅力を生み出すものだと考えています。

福津市には海産物や農産物が豊富なほか、津屋崎千軒の歴史ある街並みや「光の道」「かがみの海」などの既に多くの観光資源があります。

この豊かな観光資源に加えて、鯛茶づけフェアなどの食フェア、福津暮らしの旅などの事業を継続することで、市外からの来訪者も福津市民も地域の魅力に触れる機会が増えます。それによって、関係人口の増加が期待され、地域全体に波及効果を生み出すことができると考えています。

今後も安定して事業を開催するためにも、地域の皆さんからのアイデアをいただきながら、他業種のかたと密接に連携を図り、一体となって福津市を盛り上げていきたいです。

福津市ならではの魅力を今後も大切にしていきたいから、より多くのかたに心からの幸せを感じていただきたいと考えています。

中村留美事業本部長▶

体験型プログラムを 続々開発中

津屋崎千軒なごみでは「魔ปราシックのリサイクル」「着物で街歩き」「急須でコーヒー」「和菓子の練り切り」「モマ笛絵付け」など、地元事業者の皆さんと一緒に、体験型プログラムの企画やモニターツアーを行い、令和5年度には実際に体験型プログラムを商品として

地域との連携事業

津屋崎千軒なごみでは、観光客だけでなく、市民も津屋崎千軒なごみを訪れ、また津屋崎千軒なごみの事業に参加できるような場所づくりに取り組んでいます。

津屋崎祇園山笠では飾り山の設置会場として、地元の伝統行事に協力し、地域のイベントでは、イベント広場を開放し、地域のにぎわい作りに努めました。

◀なごみスタッフ 高武里沙さん

interview

生まれた街の観光を 楽しくしたい

津屋崎千軒なごみで働こうと思ったのは、何か福津市を元気付けるような仕事をしてみたいと思っていたときに、声を掛けてもらったことです。

実際に働いてみると、生まれたときからずっと津屋崎に住んでいるのに、福津について知らないことがたくさんあり、福津を訪れた人から教えてもらうことも多いです。私も今では、福津のさまざまな情報に敏感に反応し、ほぼ毎日SNSで発信しています。SNSを見て海外から来る人も増えてきて、たくさんの刺激を得ています。また、津屋崎千軒なごみでは、今年から市内のお店を紹介するカードを置いて、並べ方も工夫しています。市内在住の人でも新しい発見があると思いますよ。

もちろん、地域のかたと同士の交流の場としての活用も大歓迎です。なごみを訪れる全ての人の心が「和む」場所になればと思います。